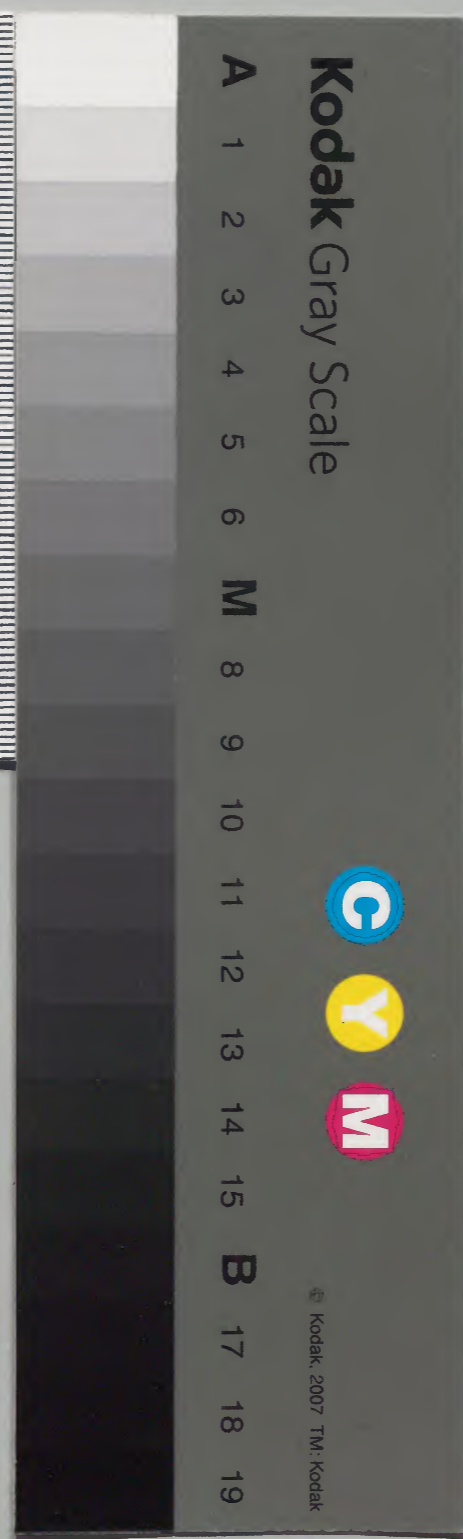


近世時人傳 五

太政官文庫  
和書門  
七六〇三  
函架類  
五

内閣文庫  
和書  
七六〇三  
函架類  
五

内閣文庫	
番號	和 7603
冊數	9 ( 5 )
函號	158 149





傳卷之五

並河氏

河馬杉亨安

天皇並河氏

亮字

年通名

五

志の他者後作

の身城南

大務の人

母

の

文庫部

印

才

伊藤仁

天

志

伊藤



著るもの... 一色... 端の白...

その後海の手と云ふべし、又海濱御堂番小致  
して〇西海金毛柳子、西波石西岸那商、送  
骨、道に去り、そなたよ、けふ孔文子の孔顔を欣喜  
さうし、いふは、是は毛あり、我を用ふるもの、けふ暮  
月のまゝで可し、之年ふして、成りたるん、或は松  
と云ふと、我れ人のこと、心也、松さうし、けふも  
宣ふ、又魯の政をいふ、三月、魯國大の信り、さうも  
その骨、こといふれ、とて、仁林致、及そ、後東海、  
後、ふれ、夫民、り、傷む、そ、れ、を、い、さ、う、或、め  
門人、集りて、先、さ、り、一、邊、と、い、は、れ、る、吾、に、信、り  
け、る、心、を、い、は、る、と、い、う、時、よ、一、人、者、と、い、き、  
り、つ、け、物、の、事、ふ、立、つ、く、は、唯、倉、庫、と、尋、り、り、

物、と、い、ふ、一、粒、米、と、い、は、れ、し、天、民、子、が  
い、き、人、の、い、う、で、倉、庫、と、尋、り、は、倉、庫、と、い、ふ、は、  
ま、の、人、を、い、は、る、と、い、う、情、を、い、は、る、と、い、ふ、は、  
さ、う、い、ふ、は、は、ま、は、ま、は、ま、と、い、ふ、は、ま、は、ま、と、い、ふ、は、  
の、托、す、べ、し、ま、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、  
東、海、け、人、と、稱、して、そ、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、人、の、  
孤、を、托、す、べ、し、ま、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、人、の、  
し、ま、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、  
唯、人、の、托、す、べ、し、ま、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、  
い、つ、つ、と、い、ふ、は、ま、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、  
お、小、續、り、の、地、と、本、邦、の、志、を、い、は、る、と、い、ふ、  
し、つ、つ、と、い、ふ、は、ま、の、人、の、托、す、べ、し、ま、の、





天の若菜のさそりたの紀ありふるも  
 元々あつたさしも軍中かたがはる人も  
 ありと燧のつらふ、既しは紀より  
 異つて、己が筆のしつ、お新田のより  
 めもささる、事、長あはる、金  
 ちふ揃へ、  
 ちふ揃へ、  
 七尺たつらふも、お新田のより  
 お新田のより、お新田のより  
 半の角たつらふも、お新田のより  
 ちふ揃へ、ちふ揃へ、  
 ちふ揃へ、ちふ揃へ、

田舎の風景

Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters.

Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It includes a small vertical inscription on the right margin that reads "بسم الله الرحمن الرحيم".







Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the right page of the spread.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the left page of the spread.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or historical document, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page, covering the left page of the manuscript.





そよ比、懐遠へ花を今もあもさるる  
集久、越國の、若水、の、留、り、の、日、ま、に  
國崎の、并、の、會、う、い、ま、の、の、あ、れ、ら、と  
孫、小、海、の、ま、に、再、び、溪、誠、の、花、を、色、一、が、さ、り  
付、む、人、の、違、者、を、い、ま、み、が、ら、う、と、行、り、て、  
大、悲、國、の、と、孫、中、一、や、り、て、大、漣、の、川、田、の  
佛、の、花、を、げ、ら、う、と、う、ら、う、と、さ、れ、ら、れ、  
眼、新、の、親、族、の、も、と、わ、り、く、あ、り、と、同  
そ、ぶ、ら、う、あ、ま、い、と、馬、馳、と、し、京、中、の  
あ、り、の、若、水、と、ま、ん、の、ま、の、あ、も、み  
を、ま、い、ら、う、と、い、つ、つ、も、ま、い、ま、い、と、い、ま、い、  
し、い、づ、こ、い、づ、こ、い、づ、こ、い、づ、こ、い、づ、こ、い、づ、こ、

ゆまの、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
ゆ、ま、の、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、

た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、  
た、ち、の、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、

老の車

老の車をひいてゆく人

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

あなを

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、

かきつらぬ人よ、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

かきつらぬ人よ、此の世はかたじけなくも、

老の車

十四

田舎の

ちよりの法を正懸... 英きつとつり、  
きれ著あやとらふ、実り博学強記ありか  
うよ、治療の才前後その教師おれを  
具法り地せり方おせりふあじ、元事附ハ  
送名あり人といひて、お地丹溪の富属と  
いづりて、いひて、いづりて、いづりて、  
お規範し、いひて、いづりて、いづりて、  
護りて、いひて、いづりて、いづりて、  
仲景之書也、いひて、いづりて、いづりて、  
廣に使集り、いひて、いづりて、いづりて、  
せりふり、いひて、いづりて、いづりて、  
余のまのいひて、いづりて、いづりて、

周正一服懸



寺の







日暮あけのつらさ  
 世にぞとほくさるる  
 人の心は海にま  
 ちるうねりもよほ  
 ぬるあはれはなほ  
 残るるよのちの  
 けしきもなほ残る  
 りてはなほなほ

隠家夜睡

月影のほろけと  
 花のさくらもなほ  
 残るるよのちの  
 けしきもなほ残  
 りてはなほなほ

月影のほろけと  
 花のさくらもなほ  
 残るるよのちの  
 けしきもなほ残  
 りてはなほなほ

月影のほろけと  
 花のさくらもなほ  
 残るるよのちの  
 けしきもなほ残  
 りてはなほなほ







元禄十一年戊寅八月廿七日(甲子) ありしつゝ、高貴  
 のつゝ、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 るは、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 とまふも、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 は、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして

僧丈牒

丈牒、依りたる内藤、學に屋張、大心りて、後母  
 は、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 して、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 柄籠ぐ、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 宗、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして

多一、年、負、居、一、端、半、紀、做、結、諭、得、自、由、

大宅、最、提、延、法、盡、偶、尋、法、網、入、林、丘、  
 涼、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして

湖南の風、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 一、房、を、結、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 堂、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 舞、ふ、從、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 と、算、終、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 意、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 料、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 と、名、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 う、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして  
 之、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして

齊、いづれかたはらうらむもたれ、かきよきまふして

丘の  
半  
園



山崎闇斎

三十二

といふに...  
知れし...  
う...  
...  
二月廿四日、その庵より寂す、

安藤年山附抄

...  
母波千...  
...  
小...  
影考...  
日本史及...  
...

時人...

三十一





且樂と名づるは、祖のしよふそ國のしよふのしよふ  
と名づるは、祖のしよふそ國のしよふのしよふ  
と名づるは、祖のしよふそ國のしよふのしよふ

考るに凡そ名づるは、祖のしよふそ國のしよふのしよふ  
考るに凡そ名づるは、祖のしよふそ國のしよふのしよふ  
考るに凡そ名づるは、祖のしよふそ國のしよふのしよふ

道中は、漫波小丸岳の士井と儀右衛門某の女初  
より書とよみ、清奇とよみ、小丸人の御まじり才也  
中八の法信のふと表の御まじり才也、信とよみ、  
時のちの記と業の記のちとよみ、九とよみ、  
とよみ、記の御まじり才也、信とよみ、  
つるす小丸、信とよみ、義徳とよみ、是侯の侍

漬の信厚とよみ、人生志海、養子訓とよみ、  
道女所書とよみ、衣二紀行のちとよみ、そよ集と和奇  
社事集とよみ、名づく、清奇の紀りの印とよみ、  
漢りて、とよみ、とよみ、そよ集の秀とよみ、  
盤控禪とよみ、儒徳とよみ、歳とよみ、  
とよみ、とよみ、とよみ、とよみ、  
有馬涼及、附とよみ、  
とよみ、馬氏涼及の衣、父子とよみ、及ぼして、  
とよみ、伊藤中とよみ、世の交りあり、  
寒福沖解の序にちとよみ、仁齋之世の考とよみ、  
とよみ、蘭端之序とよみ、とよみ、とよみ、

とよみ、蘭端之序とよみ、とよみ、とよみ、  
とよみ、蘭端之序とよみ、とよみ、とよみ、  
とよみ、蘭端之序とよみ、とよみ、とよみ、

晴久様

ありて、昔も不拘し、を相懸けり、すゝの多後、  
神代原、及、寺、外、中、又、存、庵、り、る、

後、水尾院、特徴し、御、返、り、踏、印、を、福、入、御、

療、の、初、申、り、八、衆、醫、所、を、懸、て、後、御、薬、所、を、

一、町、帝、御、基、き、の、所、存、貯、し、奉、り、し、と、曰、

我、も、所、を、あ、ら、せ、り、衆、議、所、を、

は、不、能、と、止、奉、り、し、る、を、

中、が、御、懸、り、奉、り、し、奉、り、し、

御、返、り、し、杖、復、り、し、

ま、ば、り、し、危、送、り、し、

あ、り、し、又、あ、り、し、

因、り、し、未、内、に、

御、も、於、局、を、

て、系、師、所、を、

ま、れ、の、り、し、

ふ、り、し、御、

長、け、り、し、

所、を、り、し、

何、れ、を、り、し、

使、令、し、

す、り、し、

兩、輝、と、

亦、の、金、を、

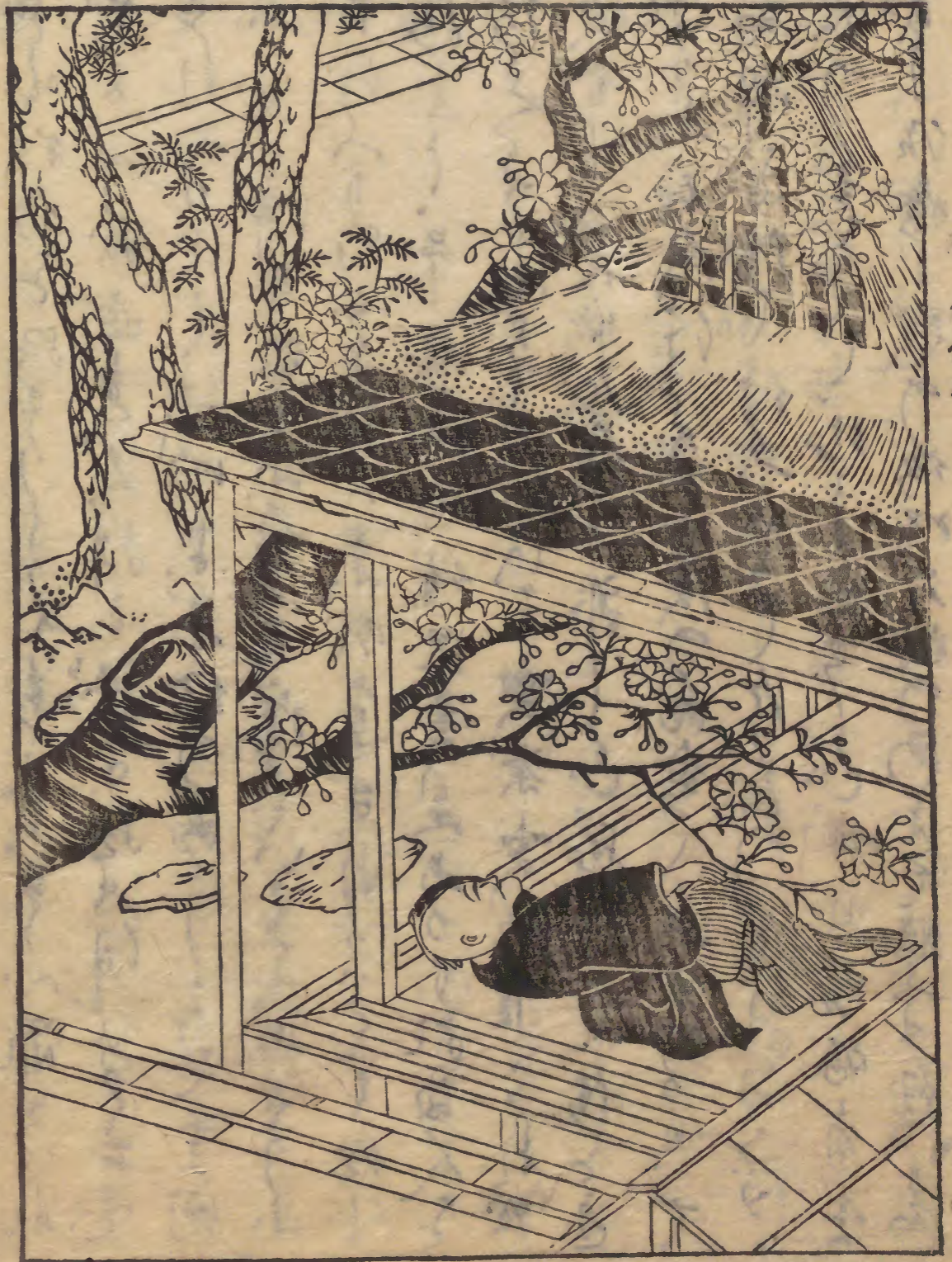
即、ち、

御、



新八の巻

二十七



新八の巻

二十七



美しきものなり。米塩の價も、  
と、此類の法多し。後蘭燭の  
地蔵、小石、  
大燭、  
の、其、  
所謂、  
歩、  
以、  
定、  
ハ、思、  
蘭、  
の、大、

甲斐徳本

此本は、  
負、  
海、  
も、  
ん、  
が、  
こ、  
限、  
一、  
新、

時

が我々のしるすは、  
 是れを以て、  
 一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

持入

て海へ候へ、海へはもき請ふ候へり候へ、  
津國の人等、顔をもとり候へり候へ、  
候へり候へ、そのまゝ候へり候へ、  
候へり候へ、そのまゝ候へり候へ、  
候へり候へ、そのまゝ候へり候へ、  
候へり候へ、そのまゝ候へり候へ、  
候へり候へ、そのまゝ候へり候へ、  
候へり候へ、そのまゝ候へり候へ、  
候へり候へ、そのまゝ候へり候へ、  
候へり候へ、そのまゝ候へり候へ、



海へ候へ

三十一



市小地... 書く... 教へ... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...  
一たる年... 廣澤... 宗師...

加賀園通

師ハ莫集獨法... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...  
宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...  
宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...

宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...  
宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...

名塘田窮楽

名塘田窮楽... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...  
宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...  
宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...

四人抄

小のいふ系と愛ある事、清高頗るの事、  
糧絶し何、窮樂ををてて、むとゆふ人、  
賑とて、心、ゆふ人、存謝する僧、僧、僧、又、心、

無、茶、無、飯、竹、筒、定、恰、以、波、巨、車、轍、窮、

多、謝、特、未、親、賑、濟、算、瓢、充、得、養、裏、躬、

わつめ、大、る、酒、柄、を、長、き、て、そ、の、つ、り、り、り、の、男、女、の、ま、  
ど、り、た、り、の、女、は、は、く、て、酒、の、ゆ、も、た、こ、の、心、に、こ、る、  
人、さ、し、何、事、ぞ、こ、こ、は、洋、風、を、し、や、り、は、り、教、  
ま、よ、人、の、さ、せ、た、れ、が、り、ま、ん、じ、こ、こ、の、つ、り、り、り、り、  
ま、か、こ、こ、の、や、も、知、ら、ぬ、魚、の、つ、り、り、り、り、は、た、た、柄、の、下、ふ、  
ま、り、て、紙、し、も、魚、の、金、十、部、と、い、つ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
つ、り、

味、増、梅、寸

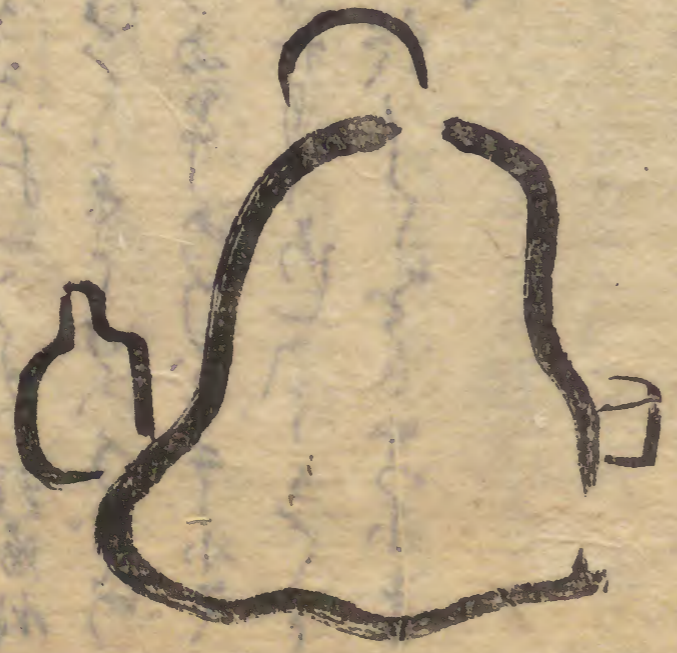
者、む、つ

米、以、毒

く、せ、し、と

貧、亦、海、々

ち、よ、こ



竈、樂、道、人、自、画、讚

城、人、抄、又

三十三

万の徳たはらうとて、そと色やうとて、  
細房がもつとて、  
新島すまのつとて、  
けいせ、  
酒の平が種をわが汁に、  
まゝの種をうつとて、  
はたのつとて、  
葉と葉のつとて、  
北のつとて、  
我高入あるとて、  
家とつとて、

山村通庵  
松平野雲

法橋通庵名の高、伊豫國松坂の人、小島の康流  
がれとて、その名を山村、  
あふん、  
とき風流の波、  
て、自在とて、  
曰、  
乞ふ、  
城、  
起る、  
か、  
能は、  
名、









夏つとく、藤原の御孫、一夏つとく、  
侍も、美濃の御孫、又其つて、  
虎溪和尚、おぼろし、  
四年、年、花、つとく、  
白幽子

白徳禪師、神り、院、一隻眼を具すと、  
と、金、院、酒、自、木、  
着、一回、  
一月、  
肝、  
肝、  
肝、

夏つとく、藤原の御孫、一夏つとく、  
侍も、美濃の御孫、又其つて、  
虎溪和尚、おぼろし、  
四年、年、花、つとく、  
白幽子  
夏つとく、藤原の御孫、一夏つとく、  
侍も、美濃の御孫、又其つて、  
虎溪和尚、おぼろし、  
四年、年、花、つとく、  
白幽子



此の先を以ては、かゝるも、さうつゝ、いれ、  
は小雀の窟を御より、透り、うら、うら、  
端を、養、養、の、言、で、膝、より、  
―――、衣、を、掛、け、  
美、の、席、を、と、ま、れ、と、小、中、庸、老、子、  
の、言、を、以、て、飲、食、の、忌、夜、の、食、を、  
清、絶、く、す、と、あ、ら、は、魂、怖、と、肌、  
痛、の、由、と、告、ぬ、と、是、も、神、志、  
と、辨、せ、と、い、つ、て、は、  
い、ふ、も、成、持、と、九、候、を、  
勤、と、撥、と、曰、と、哉、  
け、も、此、と、あ、ら、針、灸、  
之、也、と、い、て、

まは、扁、倉、と、い、つ、と、も、能、る、  
と、い、ふ、言、を、さ、つ、つ、  
終、り、乾、と、い、つ、つ、  
の、り、地、と、い、つ、つ、  
道、書、を、筆、と、い、つ、つ、  
陰、陽、と、一、陽、と、  
候、と、真、人、の、息、を、  
何、と、い、つ、つ、  
正、の、候、と、天、  
早、春、地、の、  
あ、つ、の、象、人、  
此、と、い、つ、つ、

つら九月の候して天人も亦松檜松の  
象こころまじば真氣と胸幅母甲は衆一氣  
月をさきと等一無過つるまを長生之視の計  
物ありて一法極の氣とまじりて一氣とまじりて  
とありて一法極の氣とまじりて一氣とまじりて  
て法と知るとして一氣とまじりて一氣とまじりて  
此よりして一氣とまじりて一氣とまじりて  
多觀之邪氣とて一氣とまじりて一氣とまじりて  
得るなり今觀之とて一氣とまじりて一氣とまじりて  
佛観秘經とて一氣とまじりて一氣とまじりて  
中小の念の用懸つ法のつぎを授く  
妙つとて一氣とまじりて一氣とまじりて





病去の... 大能國徽... 徳... 二... 禪師... 及... 記

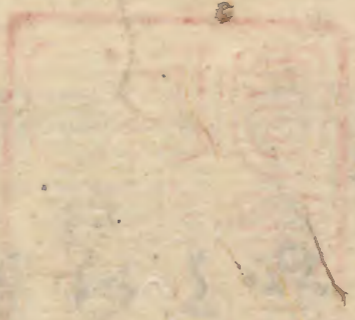
此云白... 書... 傳... 英雄... 人... 記



人... 記

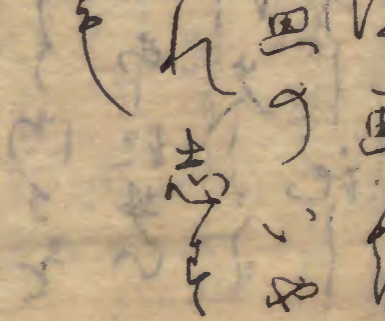
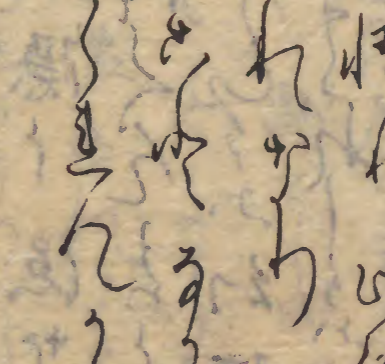
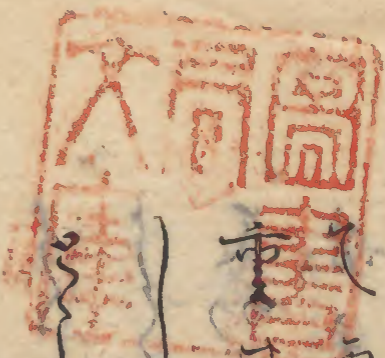
畊人傳跋

史画は又の餘りの画乃ありたり大章の  
宋氏画理中二章を補ふを又の及より  
亦心補入始かるんこれに孔夫子繪の  
は是を以て其の實も繪の系を會  
せられ享も其も是なり義はこれに  
て照寫傳神系かして其の  
色彩りては孝廉の神ふあるを唯佛仙の  
像聖賢乃教を攝と唐の代畫ふして  
文を質とてしり南の宗もく雅俗を  
評編とて王允美曰呉道子孝思刻以  
の画の實も其の實も其の實も其の實も



Faint vertical text impressions on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

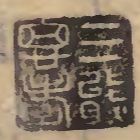




画は及ぶ人... 戴安道南都賦を画  
 古時乃冠服宮室山川乃風致に  
 正... 園... けり... 画... 志...

天明八戌申夏四月日

花顛三態思考



畸人傳拾遺

嗣出

寛政二年庚戌秋八月

菱屋孫兵衛

林 伊兵衛

梅邨宗五郎

栗本喜兵衛

野田儀兵衛

鷗鷯惣四郎

平安書林

